

◆やまがた子育て講座◆

事例1 「ゲーム依存ってなあに？」

会場：尾花沢市立常盤小学校（講師はオンラインで講演）

講師：東海林 岳樹 氏（山形県立こころの医療センター 診療部長）

<親子教育講演会（全体講演会）>

- (1) 「依存症」とは？
- (2) 依存症の種類と分類
- (3) ネット・ゲーム依存がもたらす問題点
- (4) ゲーム依存にならないために
- (5) 家族が心がけるポイント



<学級懇談会（講演会を受けてのグループ討議）>

—話し合いの視点の例—

- ・オンラインゲーム、YouTube など、保護者はどう向き合っていくか
- ・子どもの自己肯定感を高めるために心がけていること、今後心がけたいこと

<感染防止対策>

- ・Zoomによるオンライン開催、各教室に分かれて少人数で視聴 など

<参加者の感想>

- ・ゲームやメディアから離れるにあたり、その時間をどう過ごすのか考えてあげること、話し合いをすることが大事だなと思いました。
- ・その日の気分などでスマホを貸すなどしているので、期間を決めて、貸すなら貸す、貸さないなら貸さないと決めるよう話し合いたいと思います。
- ・子どもだけでなく自分も気をつけるようにしたい。親が決めてつけてはいけない。

事例2 「子どもの困り感に寄り添って」

会場：金山町立金山小学校

講師：花笠ほ一ふ隊

<全体講演会（座談会）>

- 1 花笠ほ一ふ隊の皆さんより自己紹介と花笠ほ一ふ隊の説明と活動の紹介をいただいた。
- 2 障がいを知るというのは他人事ではないこと、理解のある人が地域に多数いることが誰にとっても生きやすい社会につながることを伝えていただいた。
- 3 障がいの疑似体験を行った。



<感染防止の工夫> 検温カードの提出、マスクの着用

<参加者の感想>

- ・ユニバーサルデザインフォントを使うと読みやすいということが勉強になりました。
- ・障がいのある子もいない子も同じように、周りの理解と協力で成長するので、周囲の助けが必要なのだと思います。
- ・がんばっていないわけではない、自分のせいではないわけではない、ということ自分の子どもの教育の時にも意識しようと思いました。



事例3 「子どもの自尊心を育む勇気づけの子育て」

会場：真室川町立真室川北部小学校

講師：笹原 英子 氏（県家庭教育アドバイザー）

<全体講演会>

- ・参加者が3人グループになって、それぞれ子どもの自慢できる部分を発表し合った。
- ・子どもの自尊心を育てる子育てとして、「勇気づけ」とはどのようなことをいうのか、また声掛けの方法などを講師の先生より話していただいた。



<グループワーク>

ロールプレイとして、参加者が親役と子役になって会話を交わした。親の答え方によって子どもがどんな心情になるのか、体感していただいた。



<感染防止の工夫>

- ・参加者の席を離して配置した。
- ・会場入り口に非接触型体温測定器および消毒液を配置した。

<参加者の感想>

- ・自分が良いと思ってやってきたことが間違いであることが分かってとても良かったです。すぐにはできないかもしれないが、今日聞いたことをぜひ子どもにしたいと思いました。
- ・子どもをもっと認めることから始めてみようと思いました。

事例4 「親として子どものためにできること ～小学校入学を前にして～」

会場：長井市立平野小学校

講師：鈴木 真弓 氏

<全体講演会>

- 1 小学校はどんなところ
- 2 これまでの教員生活の経験から
- 3 今だからこそ家庭で大事にしたいこと
(絵本の読み聞かせ)



<感染防止の工夫>

- ・参加者の間隔を広くとり、マスク着用での実施
- ・会場内の窓を開け、常時換気

<参加者の感想>

- ・子どもへの声かけ等考えさせられる点が多かったので、子どもと接するときに意識していきたい。
- ・子どもに寄り添うことが大事だと思った。
- ・日々、仕事と家庭の忙しさに追われ、なかなかできていないが、子どもの目をみてゆっくり話すことを心がけていきたい。

事例5 「就学前に大切にしたいこと」

会場：白鷹町立荒砥小学校

講師：小野 卓也 氏（家庭教育アドバイザー）

<全体講演会>

- 1 校長あいさつ
- 2 講話・研修
- 3 アンケート記入



<感染防止の工夫>

- ・就学時健診時における保護者のみを対象とし密にならないようにした。

<参加者の感想>

- ・子どもと触れ合える時間は思ったよりも短く、あと数年しかないことに気付かされ今を大切にしようと思った。
- ・親の言いなりにするのではなく、そうなるような環境をつくり、うまく誘導することが大切だということがわかった。叱ることは意味のないことということに納得した。
- ・初めての子育てでわからないことばかりで、どうしたよいか不安に思っていたことが、今回の講座を聴いて不安が和らいだ。
- ・生活リズムやルールをつくったり、子どもと一緒に頑張っていこうと思った。
- ・保護者同士が話をする時間もあり、他の家庭の生活習慣を聞くことができ良かったし我が家だけではなくみんな同じような悩みを抱えながら日々頑張っていることに安心した。

事例6 「うんちから学ぶ生活リズム ～腸すっきりな快眠へ～」

会場：三川町立押切小学校

講師：庄内ヤクルト販売

<講演会>

- 腸内環境とうんちについて
- バランスの良い食事と菌活
- 快眠へつながる生活習慣とは
- おなか元気生活のポイント

<感染防止の工夫>

- ・手指消毒、マスクの着用。
- ・会場を体育館にし、座席の間隔を広く空けて密を避けた。



<参加者の感想>

- ・腸内環境について考えるよい機会になりました。家庭でも話題にして家族みんなで意識していきたいと思いました。
- ・うんちの出る時間帯の違いでも免疫の違いが出ることに驚きました。バランスの良い食事や生活習慣の大切さを改めて感じました。
- ・子どもがよく便秘をするので今回の講演会に参加しました。食事の見直し、腸には何が良いのか学ぶことができたので今後に役立てたいと思います。また、教えていただいたマッサージもやってみます。

事例7 「大切にしたい『ふるさと』『ことば』」

会場：鶴岡市立あさひ小学校

講師：佐藤 雅秀 氏（前鶴岡市立あさひ小学校長・朝日地域学校運営協議会委員）

<講演会>

○学校で大事にしたい学び＝「よみ」「かき」「そろばん」＋「つながり」

○つながり…「ふるさと」を核にした学びから 『郷土かるた あさひ』に拾う

○よみ・かき…「ことば」の学びから 何よりも日々の生活が鍛える場

○子どもの学びを支える～親の力の見せ所

<感染防止の工夫>

- ・検温、手指消毒、マスクの着用。
- ・会場は広い場所にし、座席の間隔や換気にも配慮した。

<参加者の感想>

- ・「日々の生活が鍛える場」、「子どもの力を伸ばすことを意識する」というワード、自分に足りないところだと感じました。学習する場は学校だけではないですね。

家庭が学びの場であることを改めて意識させられました。

- ・ふるさとの大切さはもちろん、これから先グローバル化と共に、両方を大切に子どもたちに成長して欲しいと願います。サポートしていきたいと思いました。



◆家庭教育出前講座◆

事例1 「子どもの心に寄り添う」

出前先：不登校・ひきこもりの家族会 オールグリーン

講師：伊藤 洋子 氏（県家庭教育アドバイザー）

<講演会>

- ・心の発達 ・安全な避難所と安心の基地
- ・児童期に獲得するべき、人生を自分らしく幸せに生きていくために必要な感情
- ・反抗期～皆さんのお子さんはいかがですか？
- ・親として何と声をかけていますか？
- ・子どもの SNS の問題、依存症とは
- ・子どもに必要な家族の支え
- ・子どもの成長を支える大人の態度



<感染防止対策> ・参加者間の距離の確保 ・換気 ・手指消毒 ・検温 など

<参加者の感想>

- ・このような講座を若い方にこそ聞いてもらいたいと思います。親も対応を間違っているとんでも、どう直していけばいいのかわからないのだと思います。思春期後の対応なども勉強したいです。
- ・子供の成長過程によって、親の関わり方も違ってくことを学びました。今までできていない事もありましたが、今からでも少しずつできることをしていきたいと思います。
- ・自分の行動や発する言葉をもう一度見直したいと思いました。子供は一人一人違うので、よい関わり方をしていきたいと思いました。

事例2 「趣味と笑いとやる気を」

出前先：村山青年会議所

講師：畑中 昌則 氏（県家庭教育アドバイザー）

<マジック講座・講話>

- ・マジックをとおして、親子でにこにこ楽しもう！
- ・子育てや家庭での大人の関わり方について：「たのしくよ」
 - た：他人と比べない
 - の：能力は一人一人にあり、みんなちがう
 - し：知ったふりはしない
 - く：口で言うより聴き上手
 - よ：よく笑う・よい人・よい出逢い



<感染防止対策> ・健康チェック自己申告書の提出

- ・検温 ・手指消毒 ・換気
- ・参加者間の距離の確保 ・リモート配信 など

<参加者の感想>

- ・人の意見を聴くことが大切だと改めて感じました。
- ・大変おもしろい講座でした。余裕をもつことの大切さを感じました。



事例3 「子供の自己肯定感を高めるために～周囲の大人にできること～」

出前先：東根市青少年育成市民会議

講師：土屋 常義 氏（県家庭教育アドバイザー）



<講演会>

- ① 青少年健全育成を考える
- ② 子どもの育ちで大切なものを理解し、対応を考える
- ③ 子どもの「今」を考える・・・そして大切なこと
- ④ 東根市の「子育て支援」を再確認してみよう
- ⑤ 共に支え合い・助け合える「共助」の地域づくりを目指して

<感染防止対策> ・参加者間の距離の確保 ・換気 ・手指消毒 ・検温
・座席の把握 ・健康チェック自己申告書の提出 など

<参加者の感想>

- ・原体験、ななめの関係を豊かにすることが、自尊感情、人格の基礎を培うことにつながることを学びました。
- ・大人から声をかける。それも、プラスの面での声かけが大事であることを再確認することができました。
- ・親自身が自分の人生を生き切っているかどうか大切にと思いました。
- ・土屋先生の温かい言葉とお話をうかがい、自分の子供、学校の子供へのかかわりを見直すよい機会となりました。

事例4 「自然と仲間と地域のふれあいで成長していく子どもたち」

出前先：地域の子ども会活動を考える会(新庄市)

講師：斎藤 秀二 氏(県家庭教育アドバイザー)

<講話>

- ① 子どもたちは、大変な環境の中にいる。
- ② テレビ・ゲームの弊害
- ③ 生活習慣の乱れが、自律神経の乱れを引き起こす。
- ④ できるだけ偏食のない子に
 - ・家庭の中で偏食を治すのは難しい。
 - ・料理と 栽培と 空腹体験を
 - ・自分の家以外で食事する体験を
→祖父母や親戚の家・社会教育施設事業・通学合宿など
 - ・お父さんが料理をする姿を子どもに見せる。
- ⑤ 自然体験・長期キャンプ・通学合宿
 - ・小一プロブレム、中一問題、高一クライシスに負けない強い精神力



<感染防止の工夫>

・少人数での開催 ・入場時の検温 ・手指の消毒 ・マスク着用の徹底

<参加者の感想>

- ・いろいろな体験談などがよかったです。
- ・食の大切さを改めて感じました。
- ・内容が多岐にわたっていてとても参考になりました。これからの子育てに少しでも役立てられるように、どうすれば子どもにとって良いのか考えていきたいです。

事例5 「みんなちがって みんないい」

出前先：金山農業協同組合

講師：花笠ほ一隊

<講演と疑似体験>

- ・誰にでも、得意なこと、不得意なことがある。発達障がいにも様々な特徴があり、それぞれ違っている。
- ・障がいへの理解のある人が地域にたくさんいることで、誰にとっても生きやすい社会形成につながる。
- ・手先の不器用さ、話の伝わりにくさなど、困難を感じる人の疑似体験を行った。

<感染防止の工夫>

- ・入場時の検温
- ・手指の消毒
- ・マスク着用の徹底

<参加者の感想>

- ・人は誰でも平等だということがわかりました。子どもへの接し方を再確認できました。
- ・疑似体験など、新鮮な経験ができて、これからの生活に活かしていきたいと思いました。
- ・子育てをする立場ではありませんが、今回の講座で子育てをする親の気持ちを知ることができました。
- ・言葉では「相手の気持ちになって」と言われても、実際に自分で体験してみないと分からないものだと思います。



事例6 「かゆいところに手が届く 保育のサポートを考えよう」

出前先：米沢市 ファミリー・サポート・センター（米沢市）

講師：小野 卓也 氏（県家庭教育アドバイザー）

<全体講演会>

- ① 夫婦の共働き／祖父母のサポート
 - ・祖父母が近くにいても頼みにくい
 - ・夫（妻）の仕事が忙しい＋家事育児に消極的
- ② 増えるひとり親家庭
 - ・仕事と育児の両立で精一杯
 - ・経済的な不安
 - ➡①②より親の社会的孤立が子供への悪影響となる。
- ③ 保育のかゆいところ＝孤独感の解消
 - ・いざというときに頼れる信頼と安心感
 - ・新しい価値観の理解と、善悪の判断のバランス
 - ・客観的になれる心の余裕
- ④ 心の持ち方を見直す
 - ・ポジティブ3：ネガティブ1の法則、セルフコンパッション、スージングタッチ等

<感染防止の工夫>

- ・健康チェック票、2週間前の行動票の提出
- ・検温
- ・手指消毒
- ・人数制限を設け、間隔を空けての座席の配置

<参加者の感想>

- ・大人が心に余裕があると、子どもに対して優しくできることを再確認しました。これからも気持ちに余裕をもって子どもたちに関わりたいです。
- ・傾聴…ただひたすら聞く（話す）だけで問題のほとんどが解決に近づくことがわかりました。



事例7 「家庭教育でめざすもの ～人を幸せにし 自分も幸せになれる人に～」
出前先：酒田地区私立幼稚園・認定こども園PTA連合会（酒田市）
講師：大川 岳二 氏（山形県教育庁庄内教育事務所 社会教育課長）

<講演会>

- 大丈夫、家の息子は馬も止めた子だ！
- 祖母の愛と祖母への愛
- 教育は何のためにするのか
- 「共感する力」を育むために
- 良質な価値観を伝えるために
- 大人が何を許せないのかを伝える
- 「自尊感情」を育むために
- 約束の守らせ方
- 「生活習慣づくり」を大切に～やまがた子育て5か条より～

<感染防止の工夫>

- ・受付時の検温、手指消毒
- ・マスク着用の徹底

<参加者の感想>

- ・子どもたちとの関わり方についてお話を聞いて良かったです。子どもたちに「大好き光線」をたくさん浴びせ、子どもたちと共に成長していきたいと思いました。
- ・温かい、熱い気持ちの大人がそばにいることの大切さ。親でなくとも憧れる大人がいることが必要だと強く感じました。文学や絵本、歴史や音楽と触れ、無条件の心地よさを感じる経験も大切だと思います。
- ・できる人よりできた人…我が子たちへの願いと重なり心に響きました。毎日の子育て、保育に生かしていきたいと思います。



◆幼児共育ふれあい広場◆

事例1 「花で育むころ～花とあそぼう～」

会 場：村山市子育て支援センター「ぐんぐん」

講 師：木村 聡美 氏（合同会社 アトリエ モモ 代表）

<全体の流れ>

- (1) 花の感触を味わおう、たくさん花を触ってみよう！
- (2) 包み紙に選んだ花の絵を描こう
- (3) 選んだ花の名前はなあに？包み紙に書こう
- (4) 花束を作ろう

<感染防止対策>

- ・ゆとりのある活動スペース
- ・空気の循環、換気 など

<参加者の感想>

- ・ 冬場だと生花に触れる機会が減ってしまうので、今回、いろいろな生花に触れることができ良かったです。
- ・ 「自由に好きに、思うがままに」することの大切さを再確認できました。



事例2 「親子でみそ作り体験」

会 場：山屋セミナーハウス

講 師：中鉢絵三 氏

(はぐくみ保育園栄養士)

<親子体験>

- ・みそ作りを通して、親子の触れ合いを図る。

<感染防止対策>

- ・検温と手指消毒、マスクの着用
- ・テープで親子ごとに分けし、その中で活動した。

<参加者の感想>

- ・ 普段見ることのない手作業ができたり、お友達とのやり取りをみてこんなこともできるんだと感じたりしました。
- ・ 馴染みのある食品の作り方を親子で学べてよかったです。
- ・ 親子で貴重な体験ができました。ちゃんと協力しており子どもの成長を感じました。



事例3 「親子で楽しむ陶芸教室」

会 場：肘折保育所

講 師：鷺畑焼藤右衛門窯 奥村由未氏

<親子体験>

- ・陶芸制作を通して親子のふれあいを図る。

<感染防止対策>

- ・入場時の検温、手指消毒、マスク着用、座席の十分な間隔の確保

<参加者の感想>

- ・ 真剣に楽しそうに陶芸を体験する子どもを見て新しい世界が広がりました。何かに夢中になれるっていいですね。
- ・ 子どもと一緒に考えて何かを作る作業がとても楽しく出来ました。
- ・ 親も童心にかえり、同じ目線で一緒に取り組むことの楽しさを再確認できました。



- ・ 普段体験することが出来ない、良い体験になりました。
- ・ 親子で協力をして物を作るという企画がとても楽しかったです。
- ・ 陶芸教室に参加し、不安でもやらせてみるということが大事だと思いました。
- ・ 見守ることの大切さに気付きました。

事例4 「人形劇を親子で楽しもう！！」

会 場：高島町営第二体育館(なごみこども園)

講 師：有限会社伝究工房劇団バク

<親子ふれあい体験講座>

- 1 手あそび
- 2 歌
- 3 人形劇

<感染防止の工夫>

- ・ 密にならないように親子が座る際、間隔をとった。
- ・ 入場時の検温と消毒
- ・ マスクの着用

<参加者の感想>

- ・ コロナ禍で行事が少ない中で、親子行事を開催してもらい、とてもありがたかった。
- ・ 息子には少し難しかったかなと思ったが、色々引きつける演出で「怖い、光ってる」と、いい意味で刺激になっていたようだ。
- ・ 大人も子どもも楽しめる内容でよかった。



事例5 「赤湯幼稚園夏祭り」

会 場：南陽市立赤湯幼稚園

講 師：HOPE

<親子ふれあい体験講座>

- 1 親子で楽しむ縁日ごっこ
(ボウリング、スーパーボールすくい
くじびき、輪投げ)

- 2 アトラクション

南陽宣隊アルカディオンショー



<感染防止の工夫>

- ・密を避けるために、参加者を園児1名につき、保護者1名までと制限した。
- ・園の施設全体を会場に設定することでゆとりを持たせた。
- ・開催中は、こまめな道具の消毒、マスク着用、順番待ちの待機列において、一定の距離を保つなどの感染防止対策の徹底を図った。

<参加者の感想>

- ・コロナ禍で、お祭りなど中止になる事も多く、縁日のような事もなかなか自宅でする機会もないので、大好きなお友達と一緒に過ごし、よい思い出の一つになったと思う。
- ・アトラクションがとても楽しかったようで、また見たいとずっと話している。
- ・子どもと一緒にまわっていろいろな話ができ、手をつないで距離も縮まった。

事例6 「海辺での遊びを楽しむ」

会 場：大東保育園（鶴岡市）

講 師：齋藤 勝三 氏（由良地域協議会「ゆらまちっく」戦略会議会長）

<親子体験>

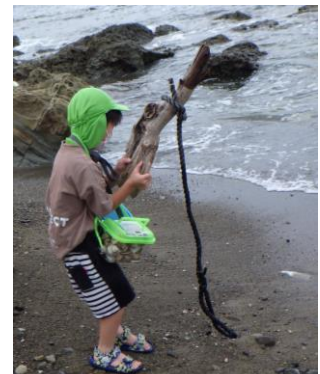
- ・貝やシーグラス拾い
- ・砂浜での造形遊び

<感染防止の工夫>

- ・マスク着用（講師・職員・保護者）

<○参加者の感想・主催者の感想>

- 子どもの目線になって、いろいろ教えたり遊んだりしていただき、とても良いふれあいの場だと思いました。
- 海を見た瞬間の「わあ～！！」が最高にいい顔でした。波が来るだけで「キャー」と盛り上がっていて幸せだなと感じました。
- ・貝やシーグラス、流木等に興味を持ち、拾い集めるだけでなく、流木とひもで釣竿に見立ててつりごっこを楽しみ、イメージを広げながら遊ぶことができました。
- ・子どもたちから「リサイクル」等の言葉が聞かれ、年齢なりに環境について考えるきっかけ作りになりました。



事例7 「親子で楽しい工作 トランスパレント」

会 場：新堀保育園（酒田市）

講 師：五十嵐 有紀子 氏

<親子体験>

- ・トランスパレントペーパーを用いて、親子で色の変化や工作を楽しみながら窓飾りを制作する。
- ・みつろう粘土で作ったパイロットを、ふわりととばすパラシュート作り。



<感染防止の工夫>

- ・子ども1名につき、保護者1名の参加
- ・1週間前から毎日の検温・体調チェックを提出

<参加者感想・主催者の感想>

- 考える力、表現する力の発達にとっても良かったと思う。
- 一緒に楽しむことができた。
- 子どもの成長を感じることができた。
- ・ 親子一緒に制作することで、保護者に子どもの成長や発想を感じ取ってもらうことができた。
- ・ 家庭で生かして遊べる方法も知ることができたので、とても貴重な体験となった。

◆家庭教育支援フォーラム◆

村山地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 テーマ 「子どもを育てる大人の個性～あなただからできる支援がある～」
- 2 期日・会場 令和4年5月10日(火) 村山総合支庁西村山地域振興局講堂
- 3 対象者 山形県家庭教育アドバイザー、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、各小中学校教職員、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育所職員、一般等(参加者22名)
- 4 内容 (1) 事例提供：①「音楽による家庭教育支援」
二瓶 明美 氏(県家庭教育アドバイザー)
②「読育による家庭教育支援」
渡邊 裕子 氏(県家庭教育アドバイザー)
③「食育による家庭教育支援」
矢口 友理 氏(県家庭教育アドバイザー)
(2) グループワーク：①事例提供を受けて
②私たちに何ができるか～自分の立場で、立場をこえて～
ファシリテーター：村山 恵子 氏(県家庭教育アドバイザー)



- 5 感染防止の工夫 ・体温測定 ・手指消毒 ・換気 ・参加者間の距離の確保
・開催時間の短縮 等
- 6 参加者のアンケートから(記述抜粋)
 - 子育て支援に対して、3つのアプローチから聞くことができ、贅沢な学びの場となりました。マタニティ期間の音の聞こえ方、音楽を通して心と身体が成長することを知ることができて勉強になりました。また大人に向けた絵本という考え方も新しかったです。食育では補食のタイミングの重要性や孤食、お手伝いが与える影響を具体的に知ることができてよかったです。
 - 自分自身が生き生きと生きていくことが、未来ある子供たちに何らかの支援となっているということに気づきました。
 - 様々な業種の方とお話することができ、いい機会になりました。それぞれの講師の先生方のお話を聞き、実践できる場所で今後活かしていきたいと思いました。
 - 家庭教育アドバイザーの先生方のお話を実際に聞くことができ、とても参考になりました。ぜひもっと多くの方に聞いて欲しいので、そのような機会を設けていきたいと感じました。
 - 仕事においても私生活においても、3つの講座すべて、とても勉強になりました。もう少し長く聞きたいなとも思いましたが、短い時間に大切な話を聞くことができ、贅沢なフォーラムでした。

村山地区「家庭教育支援フォーラム」②（放課後子ども総合プラン指導者研修会②を兼ねる）

- 1 テーマ 「『気になる』子どもの理解と保護者対応」
- 2 期日・会場 令和4年10月7日（金）Zoomアプリを使ったオンライン開催
※当日会場：村山総合支庁（村山保健所）
- 3 対象者 山形県家庭教育アドバイザー、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、各小中学校教職員、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育所職員、市町放課後子ども教室担当者、地域学校協働活動推進員、市町放課後児童クラブ担当者、放課後児童クラブ関係者（学童保育指導員、設置員、運営委員）等（参加者559名のうち家庭教育支援関係者3名）
- 4 内容 講話（90分）
講師：本郷 一夫 氏（東北大学名誉教授 AFL 発達支援研究所代表）



- I 「気になる」子どもの特徴
- II 発達障害
- III 「気になる」子どもの理解と対応
—「落ち着きのなさ」への対応—
- IV 子どもが親に及ぼす影響
- V 保護者対応と支援の方向性

- 5 感染防止の工夫 オンラインでの開催
- 6 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - 教育相談に関わって、今まで学んできたことを改めてまとめて確認できたのでよかったです。本郷先生のお話や資料もわかりやすく、聞きやすかったです。また、質問などを通して、幼稚園や学童クラブでの子供の様子や先生方の困り感を知ることができて参考になりました。（家庭教育支援関係者）
 - 内容に関しては知っていることが多かったのですが、研究結果を踏まえて、さらにそれをわかりやすくお話していただき、理解しやすかったです。実態に関しても、その通りだと納得のいくお話で、説得力がありました。立場上、支援者や保護者にお話する機会が多いので、大変参考になりました。（家庭教育支援関係者）
 - 子供が親に及ぼす影響、保護者対応と支援の方向性について大変勉強になりました。家族全体の機能が子供の発達に影響しているということを頭に置いて、支援や保護者対応をすすめたいと思います。（放課後子ども教室関係者）
 - 子供の具体的な姿が散りばめられていて、頷きながらお聞きすることができました。ちいさい時の子供の問題行動が、その後の母親の否定的愛着に影響を及ぼすというのが新しい視点でした。（放課後子ども教室関係者）
 - 気になる子供の対応もそれぞれ違うので原因を理解しないと難しい点も多かったです。気になる子供の行動特徴5つと保護者支援の10原則のお話も聞けたので参考にしていきたいと思いました。（放課後児童クラブ関係者）
 - 常にこの分野は刻々と変わっていくので、新しい情報を得るということはとても重要です。日々保育に携わる者として、アップデートしていかなければならないので、毎年開催していただくとありがたいです。（放課後児童クラブ関係者）

最上地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和4年6月4日(土) 新庄市エコロジーガーデン
2 参加対象 市町村教育委員会・福祉主管課職員、地区PTA協議会母親委員、小中義務教育学校教員、幼稚園教諭、保育士、子育て支援者等
41名

3 内 容

(1)講演 演題「今こそ、子どもに自然体験を」

講師 斎藤秀二 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

【要旨】

- 子どもたちは、大変な環境の中にいる。
 - ・いじめが多発 ・不登校が全国で最多(19万人)・ネット依存
 - ・小一プロブレム・中一問題(ギャップ)・高一ギャップ(クライシス)
- テレビ・ゲームの弊害
 - ・テレビ症候群(数秒間以上注意を持続することができない・落ち着きがなく、じっと座ってられない・衝動的な行動を抑えることができないなど)
- 生活習慣の乱れが、自律神経の乱れを引き起こす。
 - ・イライラしやすい ・集中力の欠如 ・対人関係の問題 など
- できるだけ偏食のない子に 食→人を良くする 心を整える
 - ・家庭の中で偏食を治すのは難しい
 - ・料理と栽培と空腹体験を
 - ・自分の家以外で食事する体験を→祖父母や親戚の家・社会教育施設事業・通学合宿など
 - ・お父さんが料理をする姿を子どもに見せる
- 自然体験・長期キャンプ・通学合宿
 - ・小一プロブレム・中一問題・高一クライシスに負けない強い精神力

(2)感想交流(グループワーク)

【講演の様子】



【グループ演習の様子】



4 感染防止の工夫

- ・会場参加、リモート参加のどちらでも選ぶことができるようにした。

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 子どもに考えさせることの大切さを改めて感じました。親の考え、教師の考えはあるが、当の子どもはどう感じているのか、そこを大事にして対応していかななくてはと気づかされました。
- 空腹体験も大事なことだったのが意外でした。
- 転ばないように、傷つかないように配慮しすぎていたような気がします。転ばないように気遣うのではなく、転んだ時の力をつけるための子育ても考えていかなければならないと思いました。

最上地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和4年9月5日(月) 最上総合支庁講堂(オンライン開催)
- 2 参加対象 市町村教育委員会・福祉主管課職員、地区PTA協議会母親委員、小中義務教育学校教員、幼稚園教諭、保育士、子育て支援者等
28名

3 内 容

- (1) 講演 演題「地域に求められている家庭教育支援とは～家庭教育支援チームの好事例から学ぶ～」

講師 土屋 常義 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

事例提供・シンポジスト 村山 恵子 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

事例提供・シンポジスト 佐藤 成美 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

シンポジスト 佐藤 陽介社会教育主査(山形県教育庁生涯教育・学習振興課)

【要旨】

- 家庭教育支援チームの文科大臣表彰受賞歴のある、「NPO 法人クリエイトひがしね」と、「アベルんち」の2つの団体から、日頃の活動についての事例提供をしていただいた。
- 県の家庭教育支援事業について説明をし、家庭教育支援の団体やサークルの活動が、県の事業とどのように結びついているかを説明した。
- 土屋氏によるまとめと講話
 - ・現代の子どもたちの実情について→自尊感情が低い
周囲の大人の関わりが重要。親の対応を変え、子どもとともに育ち合う。
 - ・原体験(自然体験)の大切さ。「体験」は、「自信」を育み、さらに「学ぶ意欲」を高め、深い学びに繋がっていく。

- (2) 感想交流・情報交換



4 感染防止の工夫

- ・感染が拡大している時期だったため、オンラインでの参加を基本とした。

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 土屋先生の講演にあった、スマホになりたい子ども、木肌を気持ち悪いと思う子どもたちを考えながらも、呪いの言葉ではなく、魔法の言葉を紡いでいきます。
- まさに好事例と言える2つの事例をお聞きできました。こういった事例が県内にどんどん普及して欲しいと思いました。
- 情報交換の時間も充実し、時間が足りないほどでした。初めて会う人ともこうして思いを一つにできることは、喜ばしく思いました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和4年9月15日(木) 置賜総合支庁西置賜振興局 講堂
(オンラインと参集のハイブリット開催)
- 2 参加対象 家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、小学校関係者、子育て支援担当者
(参加者49名)
- 3 内容
講演・演習「怒りの感情と向き合うアンガーマネジメント
～コミュニケーション編～」
講師 佐藤 マサル氏 (スマイルよこて代表)

- ・叱る事自体は悪い事ではない。
- ・長期的に「自分も相手も健全でいられるかどうか。」
→ストレス発散のために怒ったり叱ったりしてはいけない。
- ・怒りとは?→①感情表現の一つである。②身を守るための感情(防衛感情)
- ・怒っていいのが「アンガーマネジメント」
※アンガー=怒り、マネジメント=後悔しない事。怒る必要があることは上手に怒り、怒る必要のない事は怒らない。
- ・私たちを怒らせている正体は、理想と現実のギャップである。目の前で裏切られた時怒りが生まれる。「こうあるべき」の「べき」が着火剤。
- ・上手な怒り方・叱り方
→①怒る・叱る基準が明確であること。②リクエスト(私の気持ち)が具体的に明確であること。③妥当な表現、態度、言葉遣いであること。



4 感染防止の工夫

- ・Web会議「Zoom」を利用したオンラインと参集のハイブリットで研修会を実施した。
- ・参集者…入り口での手指消毒、マスクの着用、座席の距離

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 怒る事、叱る事が全て悪いわけではなく、必要に応じて上手に怒る・叱る事が大事だということに納得しました。
- 日頃の自分の子どもとの関わりをふり返り「こうしてみよう」という明確なビジョンが見えて前向きになりました。うまくいくかわかりませんが、トレーニングなどを取り入れ、実践していきたいです。
- 自分の理想・欲求・願望(怒る基準)をしっかりと伝えていたのか?というところを強く自分に問いながら、先生のお話を聞いていました。今後、子どもたちと関わっていく仕事の中で活かしていこうと思いました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和4年12月9日(金)置賜総合支庁西置賜振興局 会議室(オンライン開催)

2 参加対象 家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、中学校関係者、幼稚園・保育園・こども園関係者、読み聞かせ代表者、コミュニティセンター関係者、NPO法人(学童保育)関係者、保護者等
(参加者30名)

3 内 容

講演「子どもは自らの力で心身ともに成長する力がある
～モンテッソーリ教育から学ぶ大人の関わり方～」
講師 山口 礎 氏 (蔵王めぐみこども園 園長)



- ・子どもは、自分を成長させる力(自己教育力)をもっており、大人はその欲求を受け止め、自由を保障することによって、子どもの自発的な活動(遊び)を支援する存在でなければならない。
- ・楽しい環境でこそ育つ脳
- ・子どもが自己教育力を発揮できるように、大人が「発達の段階」をしっかりと知ることが大事である。
- ・人的環境(大人の関わり)と物的環境(教具類)
→「人的環境」は、子どもを全面的に受容し、子どもの成長の方向性を示す役割を果たす。また、子どもが持って生まれた自己教育力を「物的環境」に注げるように、子どもと物的環境との橋渡しをする役割がある。
- ・まとめ
 - ①子どもは「自然の力」により成長する。
 - ②「自己教育力は」脳の発達段階に合わせて変化していく。
 - ③自分でできる環境をつくるだけで、子どもは自ら育つ。
 - ④好奇心は本能。
 - ⑤大人は子どもの自己教育力を引き出せる環境を整える。
 - ⑥大人は、好奇心を目的に変え、確かなものにできるように援助する。
 - ⑦一人ひとりを観察し、その子にとっての幸せを大人が考える。

4 感染防止の工夫

- ・Web会議「Zoom」を利用したオンラインで研修会を実施した。

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 脳の仕組みなど、医学的な面から発達を学ぶことができました。
- 子どもの好奇心を尊重し、自由にのびのびと過ごすことが子どもの成長につながっていくこと、そして子どもを見守ることの大切さを改めて考えることができました。
- 「子どもはできない」のではなく「やり方がわからないだけ」このことを知るだけで支援者は子どもたちにどのような声かけをしたらよいのか気づくと思います。
- 少子高齢化が進む中、一人の子どもに関わる大人の数が多くなっていると思います。親世代、祖父母世代、または地域の大人が望む子どもたちへの期待がそれぞれ違うことで子どもたちが生きづらさを感じないように関わってほしいなと感じました。

庄内地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 期日・会場 令和4年6月30日(木)・三川町子育て交流施設テオトル

2 参加対象 保育士、幼稚園・小中学校教諭、養護教諭、社会教育関係職員、
家庭教育アドバイザー、市町家庭教育担当者等（参加者61名）

3 内 容

- (1) テーマ：「子どもの育ちに関わる大人の役割」
(2) 講 師： 鈴木 聡 氏（東京学芸大学 副学長）

1. コロナ禍の中の子どもたち
2. 体力と子どもの発達
3. 遊びと運動
4. 大人の役割



4 感染防止の工夫

- ・講師はオンラインにて参加
- ・参加者は受付時に検温・手指消毒、マスク着用の徹底

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 子どもの育ちに関わる大人の役割を、運動や遊びの視点から考える切り口はとても新鮮でした。昔と今の子ども社会の比較や体力観の変遷など、時間軸に沿った分析は斬新で、とても興味深く感じました。
- 今の子どもを取り巻く環境を考えることで、子どもを多角的に見ることができました。マイナス面だけでなく、プラス面を考えることも大切だと思いました。次は、家庭で親が子どもにどんな支援や声かけをしたらいいのか、より良い子どもへの支援のために、その親へのアドバイスをどのように行っていけばいいのかを具体的に知りたいです。
- 運動や遊びの中に、子どもの成長や人生に不可欠な要素が含まれているという視点は、社会教育に携わる者として非常に参考になりました。どうしても教育的な部分や経験の蓄積の部分ばかりに目を向けがちでしたが、遊びの面こそ充実させてあげるべきなのかもしれません。勉強になりました。



庄内地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和4年9月7日(水)・三川町子育て交流施設テオトル

2 参加対象 保育士、幼稚園・小中学校教諭、養護教諭、社会教育関係職員、家庭教育アドバイザー、市町家庭教育担当者等（参加者53名）

3 内 容

(1) テーマ：「子どものメディアのルールづくりと家族のかかわり方」

(2) 講 師： 増田 貴久 氏（精神保健福祉士）

1. ネットと子どもの現在
2. ネットメディアとうまくつきあえない原因は？
3. ルールに関する研究
4. 思春期のネット問題
5. ゲーム依存について



4 感染防止の工夫

・講師、参加者ともにオンラインにて開催

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 1人に1台のタブレット、子どもたちの吸収力のすごさに驚きます。その反面、のめりこみ度の高い子がいて心配しています。ネットとどう上手につき合っていくか、コントロールしていくか、これからの子どもたちに必要なこと、親のかかわり方など参考にしながら、がんばっていきたいと思いました。
- 「大人がネットのことを知らなすぎる」という意識を持つところから活動していくべきだと思いました。ただ「スマホはダメ！ネットは危ないから」で済まさず、スマホをうまく利用した勉強方法等、まずは大人が学び子どもにどう伝えるか考えるべきだと思います。



令和4年度 学校、家庭、地域の連携協議推進事業（家庭教育支援の推進）
庄内地区第2回家庭教育支援フォーラム

子どものメディアのルールづくりと家族のかかわり方

日時 9月7日(水) 14:00~16:00
方法 Web会議ツールZoomによるオンライン開催
(オンライン環境が整わない方は、三川町「テオトル」にて受講できます。)

講師 精神保健福祉士 公認心理士 増田 貴久 氏
NKK 認定社会福祉士 家庭教育アドバイザー

【問合せ・申込み】庄内教育事務所社会教育課(担当:後藤)
TEL 0235-68-1983 FAX 0235-66-3015

申込締切 8/22(月)
興味・関心のある方は、
どなたでも
参加できます!

〈参加対象者〉
市町行政職員(教育委員会、福祉部局等) ☆社会教育関係職員
☆家庭教育アドバイザー ☆公認心理士・カウンセラー
☆保育士、幼稚園教諭、保育教諭 ☆小・中学校教諭、養護教諭
☆読み聞かせサークル団体 等

- ノーメディアをすすめていく時代ではなくメディアとどう付き合っていくかが大切になってきていると実感しました。そのためにも「ルールづくりの3か条」を保護者に伝え、ルールを守れた成功体験を積み重ねながら、将来的には自分で管理できるような見通しをもってメディアとのかかわりを大人と一緒に支えていくことを知らせていきたいと思いました。メディアとのかかわりで何を楽しんでいるのか、何を学び、何を求めているのかをキャッチして、否定的ではない家族のかかわりを支えていきたいと思います。